

稲作情報

Vol.9 平成27年9月4日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部
 問い合わせ先：本吉農業改良普及センター
 TEL：0226-29-6044
 HP：http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html



刈取り適期は、9月中旬頃になる見込み

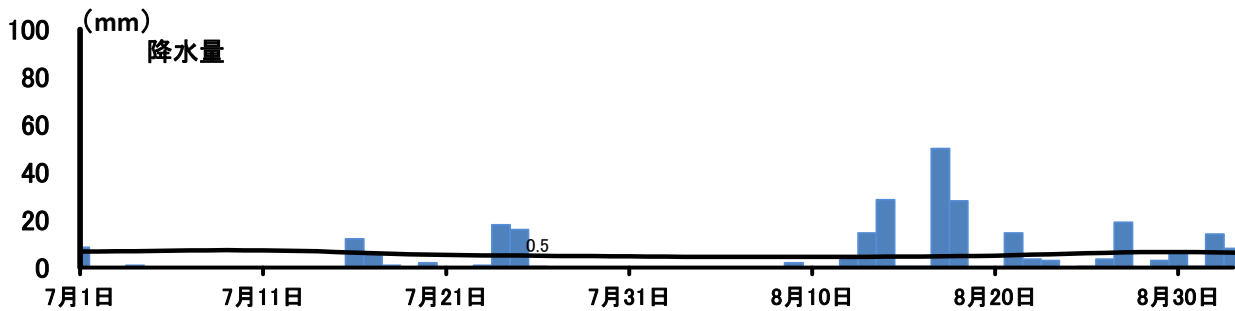
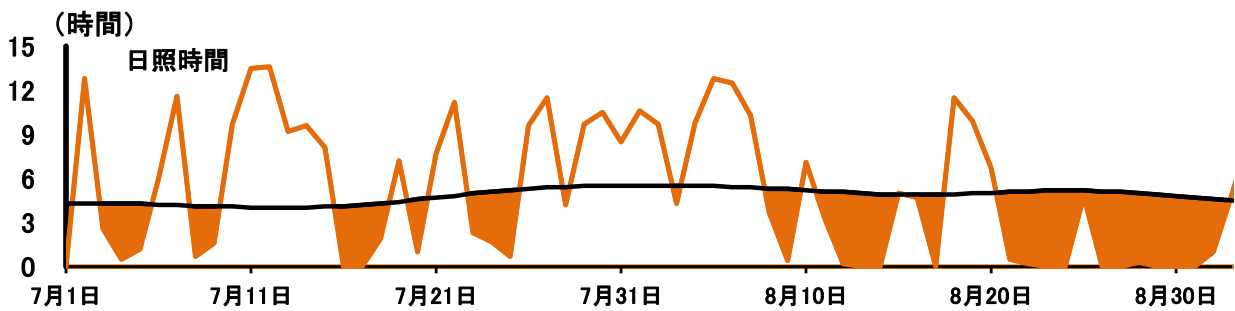
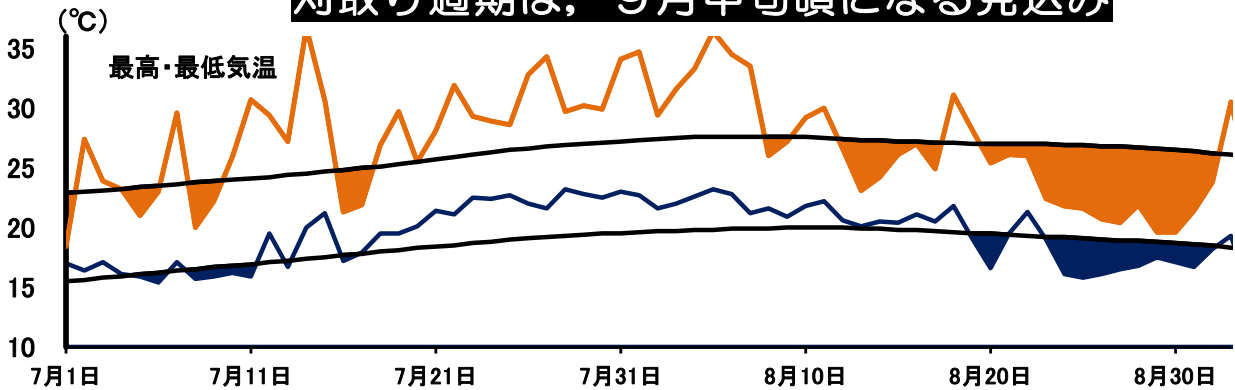


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：7/1～9/2）

8月の気象経過 上旬は高温多照少雨，下旬は低温少照傾向

気温と日照時間ともに、上旬は平年を大きく上回り、下旬は平年を大きく下回りました。降水量は、上旬は降雨がほとんどなかった一方、中旬は平年の2～3倍となり、下旬は断続的に降雨がありました。

表1 半月別気象表（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	比	H27	平年	比
8月1半旬	27.0	23.0	3.9	33.1	27.5	5.6	22.4	19.7	2.7	47.2	27.5	172%	0.0	22.7	0%
8月2半旬	25.2	23.2	2.0	30.1	27.6	2.5	21.7	19.9	1.7	34.0	26.6	128%	2.0	22.5	9%
8月3半旬	22.9	23.1	-0.2	26.0	27.3	-1.3	20.8	19.9	0.8	8.5	25.0	34%	47.5	22.7	209%
8月4半旬	23.3	22.8	0.4	27.3	27.1	0.2	19.8	19.6	0.2	32.8	24.7	133%	78.5	24.0	327%
8月5半旬	20.5	22.6	-2.1	23.6	27.0	-3.4	18.3	19.2	-0.9	5.5	25.8	21%	21.5	28.0	77%
8月6半旬	18.5	22.2	-3.8	20.6	26.6	-6.0	16.8	18.8	-2.0	0.3	29.6	1%	31.5	38.6	82%

生育状況

出穂期以降の少照傾向により登熟は緩慢

8月上旬までは高温により生育は進み、管内の平均出穂期は平年より7日早い8月2日でした。

表2 管内の出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
平成27年	7月29日	8月2日	8月8日
前年	8月2日	8月5日	8月9日
平年	8月6日	8月9日	8月13日
前年差	-4日	-3日	-1日
平年差	-8日	-7日	-5日

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%が出穂した日
平年は前5カ年の平均値

1) 生育調査ほ

生育調査ほの出穂後25日調査の結果、気仙沼市「ひとめぼれ」は、平年並の㎡当たり粒数で沈下粒数歩合もほぼ平年並、止葉葉色は平年より濃く、登熟の進みはおおむね平年並とみられます。南三陸町「ササニシキ」は、㎡当たり粒数が平年より多いため沈下粒数歩合は平年より低く、止葉葉色は平年より濃いものの、登熟の進みは緩慢です。

表3 出穂後25日調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒)	㎡粒数 (百粒)	沈下粒数 歩合 (%)	主稈 葉数 (枚)	止葉 葉色 (SPAD値)
生育調査ほ	平成27年	8月2日	77.4	17.0	536.5	54.7	293	89.7	12.6	31.1
	前年	8月6日	79.2	18.6	610	68.2	416	79.4	12.1	31.3
	平年	8月6日	77.5	17.9	487	58.6	286	91.0	12.4	27.4
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月14日)	前年差(比)	-4日	98%	91%	88%	80%	71%	10.3	0.5	99%
	平年差(比)	-4日	100%	95%	110%	93%	103%	-1.3	0.2	114%
生育調査ほ	平成27年	7月29日	75.0	16.7	497.8	68.3	340	73.1	13.0	27.9
	前年	8月2日	74.7	17.9	409	70.9	290	83.7	12.2	27.0
	平年	8月5日	74.1	17.8	404	69.1	280	88.1	12.8	24.9
南三陸町入谷 ササニシキ (5月14日)	前年差(比)	-4日	100%	93%	122%	96%	117%	-10.6	0.8	103%
	平年差(比)	-7日	101%	94%	123%	99%	121%	-15	0.2	112%

注：平年値は過去5カ年(平22～26年)の平均値

また、東北農政局が8月28日に発表した8月15日現在における作柄概況によると、宮城県東部の作柄は「やや良」で、穂数・1穂当たり粒数・全粒数は「平年並」、登熟の良否は「やや良」となっています。

表4 平成27年産水稻の8月15日現在の作柄概況(東北農政局発表)

	作柄の良否	穂数の多少	1穂当たり 粒数の多少	全粒数の 多少	登熟の良否
宮城県	やや良	多い	平年並み	多い	やや不良
東部	やや良	平年並み	平年並み	平年並み	やや良

※気仙沼市、南三陸町は宮城県東部に含まれます。

2) 復旧農地

普及センターでは、管内の復旧農地の水稻も調査を行っています。

除塩ほは復旧後作付け3年目、土壌改良プログラム実証ほは2年目です。

表5 復旧農地の生育調査結果

調査地点名 (田植日)	区名		出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒)	㎡粒数 (百粒)	沈下粒数 歩合 (%)	主稈 葉数 (枚)	止葉 葉色 (SPAD値)
除塩ほ 気仙沼市階上 (5月16日)		平成27年	8/8	75.0	18.0	330	59.6	197	87.6	13.2	27.9
		前年	8/7	85.2	19	393	77.9	306	81.7	12.6	31.0
		前年比(差)	1日	88%	95%	84%	77%	64%	5.9	0.6	-3.1
土壌改良プロ グラム実証ほ	実証区 (たい肥3t)	平成27年	8/7	69.9	18.2	412	50.0	206	87.4	12.9	29.8
		前年	8/11	68.7	16.9	293	57.4	168	93.7	13.5	26.4
		前年比(差)	-4日	102%	108%	140%	87%	122%	-6.3	-0.6	3.4
南三陸町歌津 (5月23日)	対照区 (たい肥0.6t)	平成27年	8/8	73.1	18.3	405	53.1	215	89.5	12.4	27.9
		前年	8/11	67.8	18.2	283	57.9	164	84.9	13.7	24.1
		前年比(差)	-3日	108%	101%	143%	92%	131%	4.6	-1.3	3.8

※土壌改良プログラム実証ほの基肥は、両区とも「てまいらず」34kg/10a。

※品種はすべて「ひとめぼれ」。

除塩ほは、昨年よりも穂数・一穂粒数ともに少なく、㎡当たり粒数も少ないため、沈下粒数歩合は昨年よりも高くなりました。

土壌改良プログラムでは、両区ともに昨年よりも穂数が増え、㎡当たり粒数も多くなりました。稲体栄養を表す止葉葉色は、両区ともに昨年よりも高くなり、実証区は対照区よりも高くなりました。

刈取り適期の判定

刈り遅れに注意！

刈取り時期が早すぎると青米や未熟粒が多くなり収量が低下するとともに、収穫機械や乾燥機の能率が悪くなります。また、刈取り時期が遅すぎると着色粒や胴割れ粒の割合が増加し、高温多湿条件下では穂発芽等の被害粒が発生します。

そこで、良質米に仕上げるための刈取適期の目安と収穫・乾燥作業について、そのポイントを紹介します。

① 籾の熟色と穂軸の色

籾の80～90%程度が成熟して黄色となり、穂軸が先端から3分の1程度まで黄変していれば、刈取り適期に達したと判断できます。

すべての籾が黄色になるまで待つと、刈遅れとなり玄米品質が低下するので、穂の下部にわずかに緑色の籾が残っている程度でも刈取りを開始してください。



図2 刈取り適期の熟色

② 出穂後の日数による目安

主要品種の出穂後の日数による刈取り適期の目安は、表6のとおりです。

表6 出穂後の日数による刈取り適期の目安

出穂後 日数	品種名
40～45日	ヒメノモチ ひとめぼれ まなむすめ
45～50日	ササニシキ みやこがねもち

③ 出穂後の積算気温による目安

出穂期以降の平均気温を積算して予測する場合、「ひとめぼれ」では940℃に達すると収穫が可能となります。概ね1,000℃前後で品質が最も高くなり、以後品質は低下していきます。

④ 今年の刈取り適期

積算平均気温からみた刈取り適期予測は、表7のとおりです。8月2日に出穂したほ場の場合、9月14日より刈取りが可能と予測されます。刈取り始期から終期までは8～10日間程度ありますが、計画的に作業を行い刈遅れにならないようにしましょう。

表7 出穂後の積算気温からみた刈取り適期の目安(気仙沼アメダス:9月3日現在)

	出穂後の 積算気温	出穂期						
		7月29日	7月31日	8月2日	8月4日	8月6日	8月8日	8月10日
刈取り早限	940℃	9月9日	9月11日	9月14日	9月17日	9月20日	9月22日	9月25日
刈取り適期	1,000℃	9月11日	9月14日	9月17日	9月20日	9月23日	9月26日	9月29日
刈取り晚限	1,100℃	9月17日	9月19日	9月22日	9月25日	9月29日	10月2日	10月5日

※品種:ひとめぼれ 9月2日まではアメダス実測値を使用, 9月3日以降は平年値を使用して予測

※刈取り早限～刈取り晚限は、良質粒歩合75%以上を確保できる期間

刈取り・乾燥時の留意点

①刈取り作業

○コンバインの場合

- ・ 籾水分が高いと籾や玄米が損傷し、また乾燥時間も多くなるので、籾水分は25%以下を目安に刈取を行きましょう。
- ・ 収穫作業に適する時間帯は午前10時～午後4時頃です。雨上がりや朝露のある状態での刈取は避けましょう。
- ・ 循環式乾燥機では穀温40℃、毎時乾燥減率0.8%を標準に乾燥を行きましょう。

○バインダーの場合

- ・ 籾水分28%程度の比較的高い条件でも収穫が可能です。
- ・ 架掛け等の作業に時間がかかるので、その日のうちに作業が完了できるよう計画的に刈取を行きましょう。
- ・ 自然乾燥に要する日数は概ね20日程度ですが、玄米水分15%を目標に日数を調整してください。
- ・ 秋雨が多いと穂発芽や胴割れが発生し品質が低下しやすいので、雨が多い場合は籾水分が18%程度になったら脱穀し、乾燥機で仕上げ乾燥を行ってください。

②乾燥・調製作業

- ・ 収穫した籾を長時間放置すると発熱して変質米の原因となるので、刈取り後は速やかに乾燥しましょう。
- ・ 倒伏した稲や未熟粒の多い稲などを機械乾燥する場合は、二段乾燥(下記を参照)を行い水分ムラや胴割米の発生を抑えましょう。
- ・ 火力乾燥における過乾燥は、胴割米の発生・砕粒の増加・光沢の低下等品質が悪くなります。こまめに籾水分の測定を行い過乾燥を防ぎましょう。

高水分籾乾燥時の注意点

未熟粒や青米が多く混入していると全体の水分が高く、水分のバラツキも大きくなります。このような場合には、**二段乾燥**を励行するなど特段の注意が必要です。

※二段乾燥

高水分籾等を乾燥する際に籾水分が18%程度になったところで火力乾燥を一旦停止し、一定時間通風乾燥して貯留します。精籾と青籾や未熟粒の水分差が貯留中に籾間移動で縮まり、20～30時間後に安定したところで二次乾燥を行います。二次乾燥終了後は、余熱により0.7%程度乾燥が進む場合があるので、それを見込んで早めに乾燥を停止してください。

農作業事故を防ぎましょう！

「農作業 急がず、慌てず、ゆとりの操作」

9月15日から11月30日まで、秋の農作業安全運動を実施します。

作業中はもちろんのこと、移動中も安全第一を心がけましょう。
農作物等の被害防止用の電気柵施設における安全確保に努めましょう。